

かほく市史編さんだより

第2号 令和5年(2023年)2月15日



婚礼道具のひとつ「花嫁のれん」上：昭和初期（15年頃）

「花嫁のれん」は「覚悟のれん」

下：大正期

花嫁のれんは、一般的に松竹梅、鶴亀、宝物などの縁起物が描かれ、上部に花嫁の実家の家紋が染め抜かれており、娘の幸せを願う気持ちを込め親から贈られるものです。花嫁は、婚家の仏間の入口に掛けられた「婚家の家風に染まります」との意味合いを持つ花嫁のれんをくぐり、仏壇参りをした後に結婚式に臨みました。

写真の花嫁のれんは、市内にお住いの方が大切に保管されていたものです。今ではほとんど見かけることの無くなったこのような風習は、江戸時代末期から明治時代にかけて、加賀藩の領地で始まったと言われています。



編さん室では、ご自宅に保管されている史資料や古い写真の情報提供をお待ちしております

第3回編集専門委員会を開催しました



令和4年10月20日(木)に第3回編集専門委員会を開催しました。会議では、7月から9月にかけて開催した各部会からの報告があり、令和6年度刊行予定の「かほく市史 図説編」の、全94項目の内容と執筆者について話し合いました。

編集委員の先生方は、市民の皆様が手に取った時、興味を持ち見やすく分かりやすい冊子にしたいと意気込んでいます。また3月には、編さん委員会にて進捗報告を行う予定です。

これまでの調査から

現在、編さん室では各部会の委員の方々とともに、地域の皆様に協力いただき、執筆に必要な調査活動及び史料や写真の収集を行っています。本日よりでは、令和4年8月から12月までに行った活動から、3つの調査活動についてご紹介します。



▲大切に育てられているぶどう (8月)

現代部会 (戦後～現在について執筆)

石川県砂丘地農業研究センター(旧砂丘地農業試験場)では、ルビーロマン開発と商品化率向上の苦勞などについて話を伺いました。また、ぶどう出荷場では、農家から運び込まれるルビーロマンの計測や箱詰め作業を見学しました。

寺社部会 (寺院・神社について執筆)

市内神社に奉納されている絵馬や扁額について、描かれている内容やサイズ等を確認する事前調査を12社において行いました。

次年度以降は市内すべての神社について、石造物も含め本格的な調査を行っていく予定です。



▲神社内の奉納絵馬 (11・12月)



▲寺院が所蔵する貴重な史料 (11月)

近世部会 (主に江戸時代について執筆)

古文書の所有について情報を頂きました寺院にて、江戸時代から明治時代にかけての貴重な書状を拝見しました。

次年度以降、神社同様、市内の主な寺院のすべてについて、順次調査していく予定です。

特集「民俗」調査について

「民俗」とは、広辞苑によると「人々の伝統的な生活文化。民間の習俗。民族の伝承文化」とあります。人々の生活の営みの中で、その地域に応じた様々な事象の移り変わりを記録し、後世に伝えていく学問が民俗学と言えるでしょう。

本だよりの表紙で取り上げた「花嫁のれん」をはじめとする婚礼の風習や、コラムで紹介する「荷方節」といった伝統芸能は、この「民俗」の分野として「かほく市史 図説編」内でも取り上げられる予定です。当市史の民俗部会長である 小林 忠雄 氏にご挨拶をお願いしたところ、次の手記を寄せて下さいました。



▲実際に使用された「婚礼道具」の「風呂敷」

『かほく市の民間伝承断片』

編集専門委員会 民俗部会長 小林 忠雄

昭和 50 年頃、当時高松町の歯科医 丹羽 又平氏 から、昭和 30 年頃まで高松町では海沿いの建物の大屋根の先に草刈り鎌を立てる風習があったと聞いた。これは毎年 12～1 月頃に「おろち」と呼ぶ竜巻が起これ、このあたりの町やムラを襲うもので、いわば鎌は屋根の上を通る「おろち」の胴体を切るため、あるいは近づけないための呪いであったという。

私も子どもの頃、昭和 30 年の冬、北陸線の新潟県糸魚川付近で車窓から日本海を走る「おろち」を見た記憶がある。黒雲に吸い込まれる青黒い海水の細い帯が、荒波の日本海を渡る光景に身震いを覚えた。どうやら高松海岸も「おろち」が通る道筋になっているらしい。でもなんと素朴な鎌の発想のイメージーションなのだろうか？

民俗学の調査方法とおねがい



▲漁業儀礼「起舟」の聞き取り ▲民俗文化財「ヤッサン踊り」資料 ▲歴史的建造物として屋内を記録

民俗学の調査対象は「記憶」「伝承」「モノ」が主となります。それらを記憶している方、伝承してきた方、使ってきた方に聞き取りを行い、その記憶や伝承に地域性があるのか、限定的であるか或いは普遍的なのか、裏付けもしながら文字を起こす作業までが大変重要といえます。上記の 3 つ写真は、民俗分野での執筆のため聞き取りや資料確認、現地調査を行った様子です。

時代の流れなどにより、これまでの生活文化が大きく変化し、伝統的な行事や風習が失われていく現在、できるだけ多くを記録しておくため、皆様のところにお邪魔しました際はどうぞ、ご協力いただけますようお願いいたします。

コラム かほく市の歴史お宝

かほく市指定民俗文化財「内日角荷方節」

昨年のかほく市生涯学習フェスティバルで、内日角伝承芸能保存会の皆様による「内日角荷方節」が披露されました。この「内日角荷方節」は、「内日角まだら」、「高松ヤッサン踊り」とともにかほく市の民俗文化財に指定されています。

内日角に面する河北潟は、かつて能登と加賀を結ぶ重要な水路で、藩政時代から大正初期の頃、駄賃船と呼ばれる運搬船が、内日角と金沢の須崎や大野との間を様々な物資を運んでおり、全盛期には200艘もの船があったそうです。当時、潟を相手にした厳しい自然との戦いの中で歌い継がれたのが「荷方節」です。船着場である「茶屋」では、荷方衆が荷方節などの唄を競い合いました。

厳しさを表すこんな一節もあります。「なんぼ好きでも荷方はいやじゃ 嵐吹く度身が細る」。

この駄賃船も、明治31年七尾線開通とともに衰退し、大正10年頃にはすっかり姿を消しました。

同保存会では、忘れ去られようとしていた「荷方節」を復興するとともに、同じく内日角地区に伝わる「念仏踊り」なども、子ども会を交えながら次の代へ傳承していこうとしています。



▲披露された「荷方節」

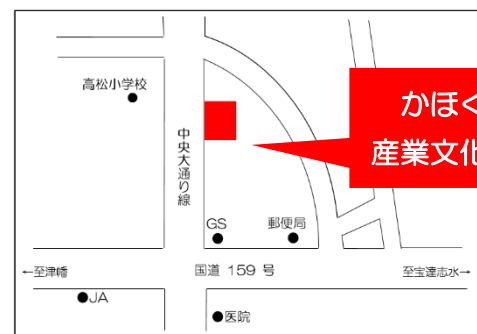
編さん室の歩み（活動記録）

10月3日	聞き取り調査・個人宅（民俗）
9日	第2回 古代・中世部会 会議
13日	聞き取り調査・桜井町会館（民俗）
15日	かほく市史編さんだより発行
19日	聞き取り調査・個人宅（民俗）
20日	第3回 編集専門委員会 会議
29.30日	生涯学習フェスティバル行政展示
11月8日	史料事前調査・個人宅（近代）
18日	絵馬事前調査・神社2社（近世）
21日	絵馬事前調査・神社3社（近世）

11月24日	絵馬事前調査・神社3社（近世）
25日	絵馬事前調査・神社1社（近世）
28日	絵馬事前調査・神社1社（近世）
28日	史料事前調査・寺院1寺（近世）
29日	絵馬事前調査・神社1社（近世）
30日	聞き取り調査・個人宅（民俗）
30日	絵馬事前調査・神社1社（近世）
12月5日	聞き取り調査・個人宅（民俗）
9日	F Mかほく 出演（職員）
20日	能美市視察 受入

お問合せ・資料の提供はこちらまで

〒929-1215
かほく市高松ク42番地1
かほく市高松産業文化センター3階
かほく市史編さん室
TEL：(076)281-3455
FAX：(076)281-3521
E-mail：shishi@city.kahoku.lg.jp



かほく市高松
産業文化センター